

スーパーマーケット販売統計調査資料

2017 年 12 月実績 速報版(パネル 270)

11 月実績 確報版(パネル 270)

2017 年 年間集計速報版

(2018 年 1 月 23 日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016 年 4 月実績よりパネル対象企業変更(275 社→270 社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮 3 部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚げ物、弁当、おにぎり、寿司、インスタペーカーリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
	非食品		日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具	
	その他		テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業 (DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)	

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014 年 4 月実績よりエリア区分を 8 地方区分による 6 地方に変更

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2018年1月23日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2017年12月実績 速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
総売上高	105,027,691	100.0%	102.4%	101.0%
食品合計	93,625,031	89.1%	102.7%	101.2%
生鮮3部門合計	36,467,604	34.7%	103.7%	102.1%
青果	14,197,095	13.5%	104.9%	103.4%
水産	10,160,108	9.7%	101.7%	100.2%
畜産	12,110,401	11.5%	104.1%	102.3%
惣菜	10,403,202	9.9%	103.2%	101.0%
日配	19,431,223	18.5%	102.2%	101.0%
一般食品	27,323,002	26.0%	101.6%	100.3%
非食品	8,271,007	7.9%	101.0%	100.6%
その他	3,131,696	3.0%	96.9%	97.4%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
北海道・東北地方	15,312,148	43	102.3%	100.5%
関東地方	38,761,667	73	103.1%	101.6%
中部地方	12,896,934	53	102.3%	100.7%
近畿地方	21,627,169	44	101.9%	100.9%
中国・四国地方	10,428,029	34	101.1%	99.9%
九州・沖縄地方	6,001,744	23	101.8%	101.0%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
1～3店舗	884,184	45	99.6%	99.6%
4～10店舗	4,761,286	72	101.4%	99.8%
11～25店舗	12,187,698	64	101.9%	99.8%
26～50店舗	19,187,513	45	101.3%	100.2%
51店舗以上	68,007,010	44	102.8%	101.5%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	102,347,005
総店舗数（店舗）	7,909	店舗平均月商（万円）	13,280
総売場面積（㎡）	13,153,489	売場1㎡あたり売上高（万円）	8.0

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2018年1月23日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2017年11月実績 確報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
総売上高	86,602,870	100.0%	101.3%	99.9%
食品合計	77,246,486	89.2%	101.5%	100.0%
生鮮3部門合計	29,458,293	34.0%	100.4%	98.8%
青果	11,499,726	13.3%	96.1%	94.7%
水産	7,406,419	8.6%	101.2%	99.5%
畜産	10,552,148	12.2%	104.9%	103.0%
惣菜	8,498,307	9.8%	102.8%	100.5%
日配	16,711,978	19.3%	101.7%	100.5%
一般食品	22,577,908	26.1%	102.4%	101.1%
非食品	6,926,936	8.0%	99.7%	99.3%
その他	2,429,492	2.8%	98.2%	97.5%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
北海道・東北地方	11,703,774	43	100.9%	99.4%
関東地方	31,975,646	73	101.8%	100.6%
中部地方	10,578,380	53	101.9%	99.6%
近畿地方	19,122,002	44	100.8%	99.6%
中国・四国地方	8,526,031	34	99.7%	98.4%
九州・沖縄地方	4,697,037	23	101.6%	100.8%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
1～3店舗	688,800	45	99.0%	99.0%
4～10店舗	3,779,582	72	100.3%	98.7%
11～25店舗	9,799,798	64	100.6%	98.9%
26～50店舗	15,383,200	45	100.8%	99.5%
51店舗以上	56,951,490	44	101.6%	100.3%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	84,288,448
総店舗数（店舗）	7,898	店舗平均月商（万円）	10,965
総売場面積（㎡）	13,101,323	売場1㎡あたり売上高（万円）	6.6

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2018年1月23日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2017年実績（パネル270）速報版

	全店売上高（万円）	構成比	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
総売上高	1,064,789,407	100.0%	101.0%	99.6%
食品合計	949,220,746	89.1%	101.3%	99.8%
生鮮3部門合計	361,596,981	34.0%	100.8%	99.1%
青果	146,277,512	13.7%	99.9%	98.4%
水産	93,006,980	8.7%	98.9%	97.3%
畜産	122,312,488	11.5%	103.4%	101.6%
惣菜	107,133,348	10.1%	102.1%	100.1%
日配	205,401,392	19.3%	101.3%	100.0%
一般食品	275,089,024	25.8%	101.6%	100.2%
非食品	80,350,189	7.5%	99.0%	98.8%
その他	35,218,472	3.3%	97.0%	97.4%

エリア別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
北海道・東北地方	148,474,604	43	101.0%	99.7%
関東地方	392,228,971	73	101.5%	100.4%
中部地方	131,039,928	53	101.2%	98.9%
近畿地方	230,158,740	44	100.3%	99.3%
中国・四国地方	106,070,699	34	100.2%	97.9%
九州・沖縄地方	56,816,465	23	100.6%	99.6%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
1～3店舗	9,103,950	47	97.4%	97.1%
4～10店舗	44,434,251	68	99.8%	98.5%
11～25店舗	123,629,592	66	100.3%	99.0%
26～50店舗	199,021,816	46	100.2%	98.8%
51店舗以上	688,599,797	43	101.4%	100.1%

※保有店舗数カテゴリーは2016年1月時点での保有店舗数による分類

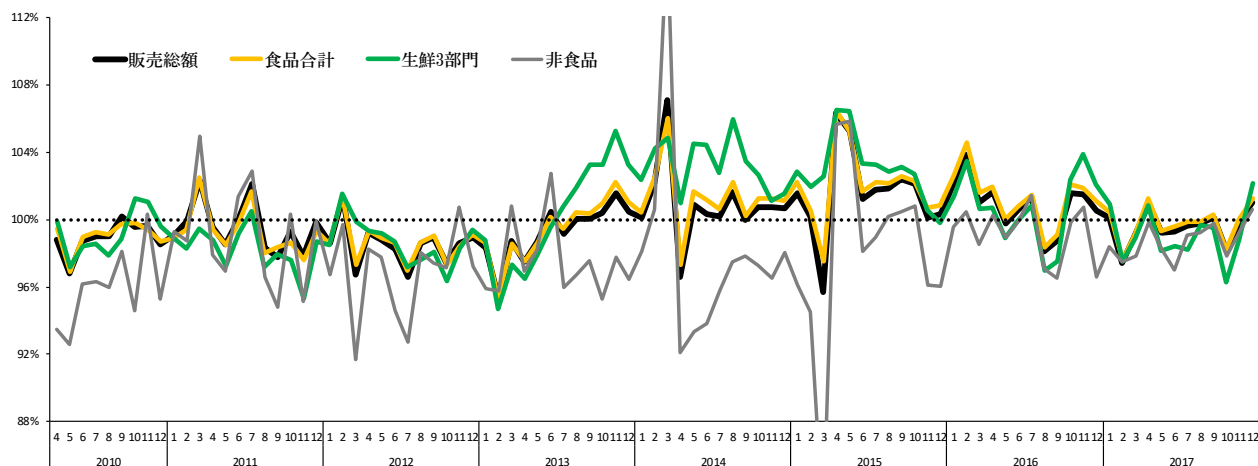
集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	1,036,305,837
----------	-----	-------------	---------------

※売上高は税抜金額

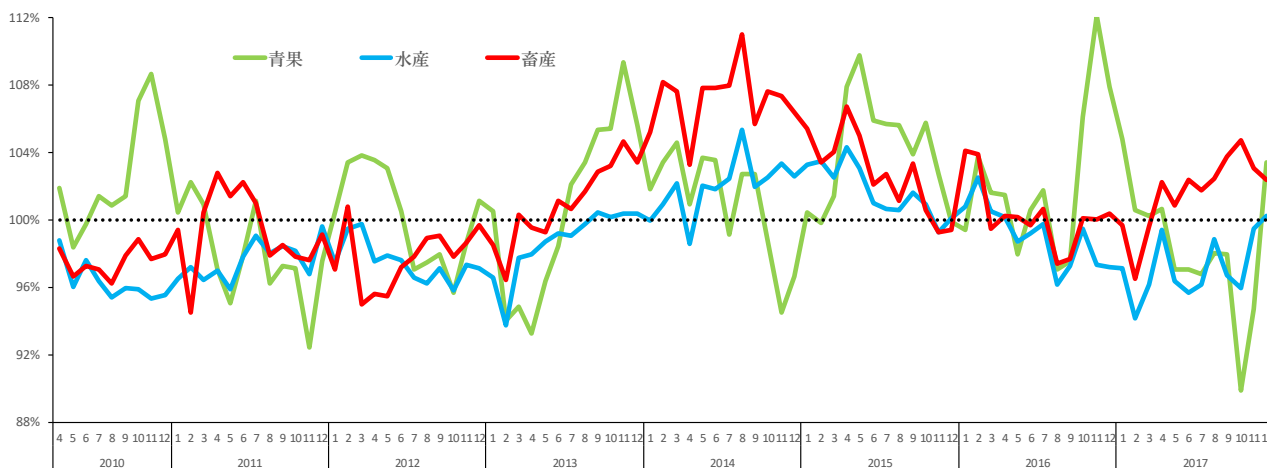
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2010年4月～

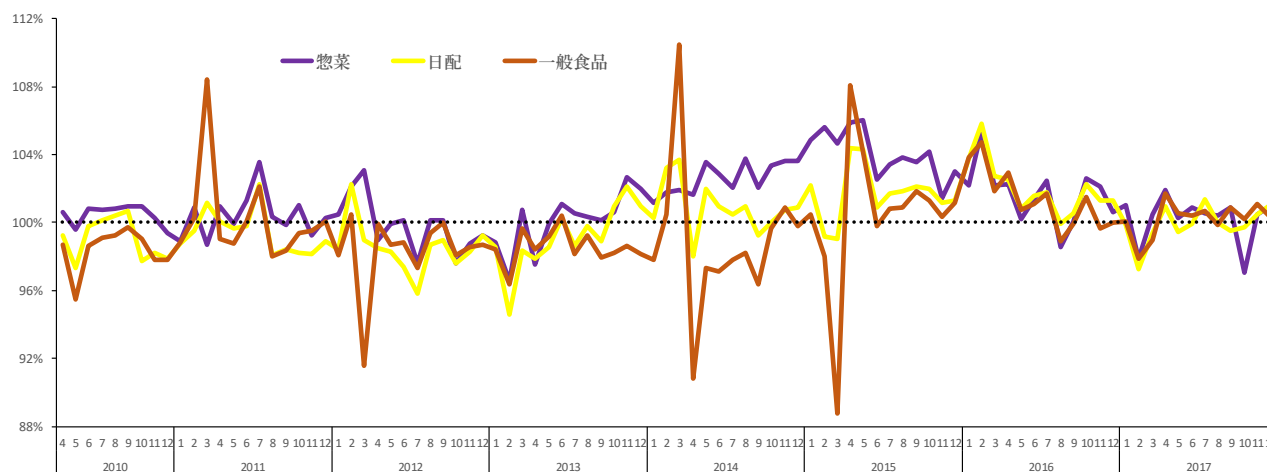
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2017年11月までは確報版による前年同月比、2017年12月は速報版による前年同月比

2017年12月エリア別気候状況

1. 月の気温：全国的に気温が低く、西日本ではかなり低かった

上旬：北日本ではかなり低く、東・西日本と沖縄・奄美で低かった

中旬：西日本でかなり低く、東日本と沖縄・奄美で低かった

下旬：東・西日本で低く、北日本と沖縄・奄美では平年並だった

2016年12月との比較：月を通じて前年よりかなり低い気温となった

	平年との比較（℃）						今年と前年との差（℃）		
	2017年12月			2016年12月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	-3.4	-0.2	0.8	0.3	-0.8	-0.1	-3.7	0.6	0.9
東北地方	-1.8	-1.1	-0.7	1.0	0.4	1.3	-2.8	-1.5	-2.0
関東甲信地方	-1.3	-1.1	-0.3	1.6	-0.1	2.1	-2.9	-1.0	-2.4
北陸地方	-1.8	-2.4	-0.2	1.4	0.1	1.7	-3.2	-2.5	-1.9
東海地方	-1.5	-2.0	-0.4	1.6	0.0	2.0	-3.1	-2.0	-2.4
近畿地方	-1.8	-2.3	-0.4	1.5	0.0	1.9	-3.3	-2.3	-2.3
中国地方	-2.1	-2.7	-0.3	1.6	0.5	1.8	-3.7	-3.2	-2.1
四国地方	-2.1	-2.7	-0.7	1.5	0.5	2.1	-3.6	-3.2	-2.8
九州北部	-2.0	-2.5	-0.6	1.2	1.1	2.2	-3.2	-3.6	-2.8
九州南部・奄美地方	-1.9	-2.5	-0.9	1.5	1.3	2.1	-3.4	-3.8	-3.0

平年差

+2℃以上

+1℃以上

-2℃以上

-1℃以上

前年差

+2℃以上

+1℃以上

-2℃以上

-1℃以上

2. 月の日照時間：北日本日本海側と沖縄・奄美でかなり少ない一方、東日本太平洋側で多かった

上旬：沖縄・奄美でかなり少なく、北・東日本太平洋側で多かった

中旬：北・東・西日本日本海側と沖縄・奄美で少ない一方、東日本太平洋側でかなり多かった

下旬：北日本日本海側で少なく、北日本太平洋側と東・西日本、沖縄・奄美で平年並だった

2016年12月との比較：一部でやや少なかったほかは、前年並みの日照時間となった

	日照時間 平年比（％）						今年と前年との差（％）		
	2017年12月			2016年12月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	122	86	89	94	140	79	28	-54	10
東北地方	93	87	93	131	111	99	-38	-24	-6
関東甲信地方	114	126	109	122	112	95	-8	14	14
北陸地方	93	58	86	116	111	97	-23	-53	-11
東海地方	114	118	99	119	104	98	-5	14	1
近畿地方	114	115	96	117	95	83	-3	20	13
中国地方	87	85	86	118	99	84	-31	-14	2
四国地方	106	98	101	110	91	86	-4	7	15
九州北部	91	75	90	125	94	85	-34	-19	5
九州南部・奄美地方	79	86	111	118	113	107	-39	-27	4

平年差

平年比150％以上

平年比125％～149％

平年比50％以下

平年比51％～75％

前年差

+50％以上

+25～49％

-50％以下

-25～-49％

3. 月の降水量：北・東日本日本海側では降水量が多く大雪となる時期があった

上旬：東日本日本海側でかなり多く、沖縄・奄美で多かった一方、東・西日本太平洋側で少なかった

中旬：北日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側で多かった。一方、東日本太平洋側と西日本ではかなり少なく、沖縄・奄美で少なかった

下旬：東・西日本太平洋側で多かった一方、沖縄・奄美ではかなり少なかった

2016年12月との比較：北陸地方では多くなったが、他はかなり少ない降水量となった

	降水量 平年比（％）						今年と前年との差（％）		
	2017年12月			2016年12月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	112	133	95	141	56	186	-29	77	-91
東北地方	67	91	89	96	138	109	-29	-47	-20
関東甲信地方	22	3	77	75	265	211	-53	-262	-134
北陸地方	167	144	95	97	82	131	70	62	-36
東海地方	8	13	185	53	291	332	-45	-278	-147
近畿地方	38	23	180	79	253	262	-41	-230	-82
中国地方	85	26	58	105	169	306	-20	-143	-248
四国地方	49	3	177	99	301	317	-50	-298	-140
九州北部	37	9	71	41	215	377	-4	-206	-306
九州南部・奄美地方	48	12	55	37	145	159	11	-133	-104

平年差

平年比150％以上

平年比125％～149％

平年比50％以下

平年比51％～75％

前年差

+50％以上

+25～49％

-50％以下

-25～-49％

気象庁ホームページ・報道発表資料「12月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年～2010年）の平均

スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2018 年 1 月調査結果（12 月実績）
（2018 年 1 月 23 日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの 5 段階で評価
- ・前年同月を 100 とした当月の値を調査 ※2014 年 4 月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの 5 段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じて DI を算出

かなり改善 +0.5 ・ やや改善 +0.25 ・ 変わらない ±0 ・ やや悪化 -0.25 ・ かなり悪化 -0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DI は「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・ 2 ～ 3 ヶ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで 5 段階で評価
- ・ 今後 2 ～ 3 ヶ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの 5 段階で評価

景況感 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じて DI を算出

かなり改善 +1.0 ・ やや改善 +0.75 ・ 変わらない +0.5 ・ やや悪化 +0.25 ・ かなり悪化 +0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DI は「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

1月調査（12月実績）結果概況

景気判断 DI は現状判断、見通し判断共に大幅に改善

12月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断 DI 現状判断は前月から+5.3の48.6、見通し判断も前月から+3.9の45.8となり、どちらも大幅な改善となった。

経営動向調査では、売上高 DI が-3.1、収益 DI は-4.6と前月からマイナス幅を大幅に縮小した。青果相場が高騰したことで生鮮仕入原価 DI が14.8まで上昇し、販売価格 DI や客単価 DI が大幅に上昇したことが売上 DI の上昇につながった。天候も安定していた地域が多いことから、来客数 DI は前月より上昇し-8.7までマイナス幅を縮小したことも追い風となった。

カテゴリー動向調査では、すべてのカテゴリーで前月から DI が上昇し、特に相場高騰した青果 DI が4.1と前月から+27.4と大きく上昇した。全体的に前年より低い気温により、冬物商材の動きがよく、鍋物需要が高まりを追い風に底堅く推移した。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、景気判断 DI が現状、見通しともに大きな改善を見せたため、一転してすべての移動平均線が上昇に転じ、これまでのダウントレンドに変化がみられた。（周辺地域景気動向 DI 長期傾向参照）

天候も追い風に前月より大幅な持ち直しをみせた。消費状況に対する悲観の見方は少なくなってきており、底堅さを感じている店舗も少なくない。一方で価格競争が激しいとの指摘が目立ち、来客数の維持・増加に苦心している店舗も多い。他業態も含めた競合が続くなかで、消費者にどのように来店を促すか、取り組みの重要性はさらに高まっている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：48.6 (+5.3) 前月：43.3	消費者購買意欲DI 当月：48.4 (+4.0) 前月：44.4	周辺地域 競合状況DI 当月：42.1 (+2.4) 前月：39.7	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：49.4 (+3.0) 前月：46.4
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：45.8 (+3.9) 前月：41.9	消費者購買意欲DI 当月：46.6 (+3.0) 前月：43.6	周辺地域 競合状況DI 当月：40.8 (+2.3) 前月：38.5	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：48.1 (+2.3) 前月：45.8
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-3.1 (+7.2) 前月：-10.3	客単価DI 当月：6.4 (+4.8) 前月：1.6	来客数DI 当月：-8.7 (+4.9) 前月：-13.6	
収益DI 当月：-4.6 (+4.6) 前月：-9.2	販売価格DI 当月：5.0 (+4.4) 前月：0.6	生鮮品仕入原価DI 当月：14.8 (+9.1) 前月：5.7	食品仕入原価DI 当月：3.6 (+2.9) 前月：0.7

カテゴリー動向

青果DI 当月：4.1 (+27.4) 前月：-23.3	水産DI 当月：-3.7 (+6.2) 前月：-9.9	畜産DI 当月：7.8 (+1.6) 前月：6.2	
惣菜DI 当月：0.3 (+2.1) 前月：-1.8	日配DI 当月：-2.5 (+3.2) 前月：-5.7	一般食品DI 当月：-3.2 (+1.2) 前月：-4.4	非食品DI 当月：-7.6 (+1.9) 前月：-9.5

○ 内は前月 DI との増減、赤字はマイナス

1月調査（12月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高 DI

マイナス圏での推移が続くもマイナス幅は縮小

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	11.3	38.4	30.5	19.7	0.0	-10.3
売上高（当月）	6.3	31.4	33.0	27.2	2.1	-3.1



2. 収益 DI

マイナス圏での推移が続くもマイナス幅は縮小

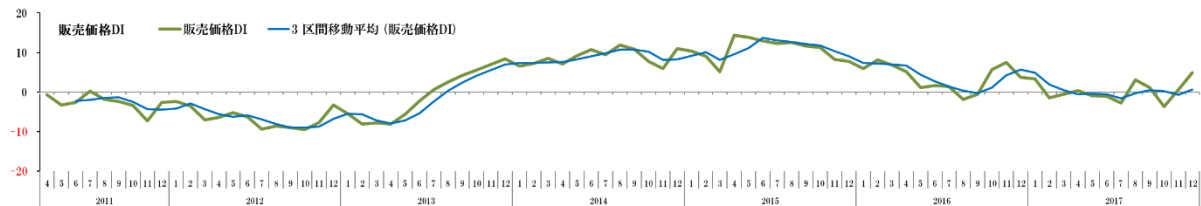
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	11.4	36.3	31.8	18.4	2.0	-9.2
収益（当月）	9.0	27.0	39.2	23.3	1.6	-4.6



3. 販売価格 DI

プラス幅をやや拡大し、底堅く推移

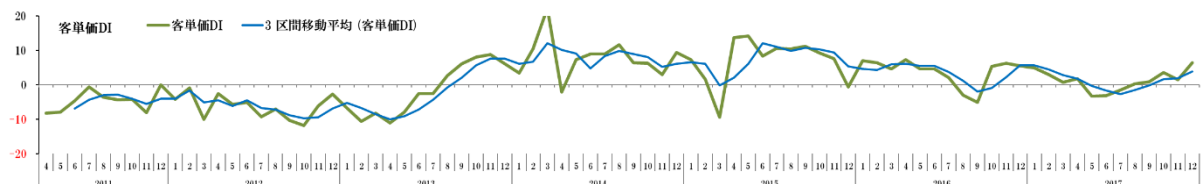
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	16.3	65.3	17.8	0.5	0.6
販売価格（当月）	0.0	9.4	62.3	27.2	1.0	5.0



4. 客単価 DI

プラス幅をやや拡大し、底堅く推移

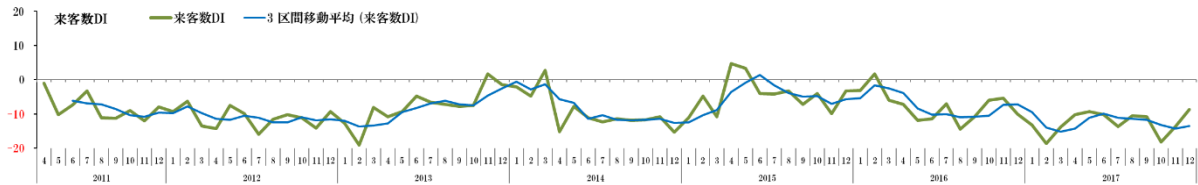
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	0.5	20.7	50.7	28.1	0.0	1.6
客単価（当月）	0.0	15.8	43.2	40.5	0.5	6.4



5. 来客数 DI

マイナス圏での推移が続くもマイナス幅は縮小

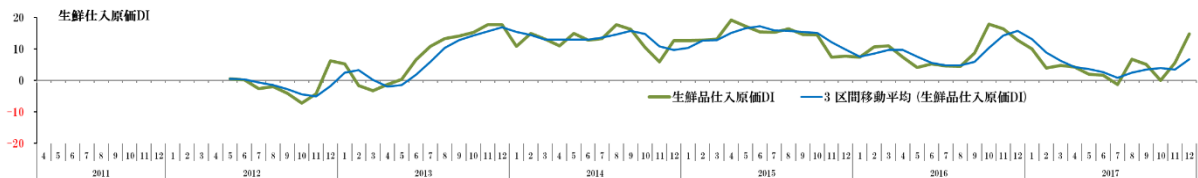
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	10.8	43.6	34.8	10.8	0.0	-13.6
来客数 (当月)	8.3	40.1	30.7	19.8	1.0	-8.7



6. 生鮮仕入原価 DI

大幅な上昇をみせ、二桁のプラスを記録

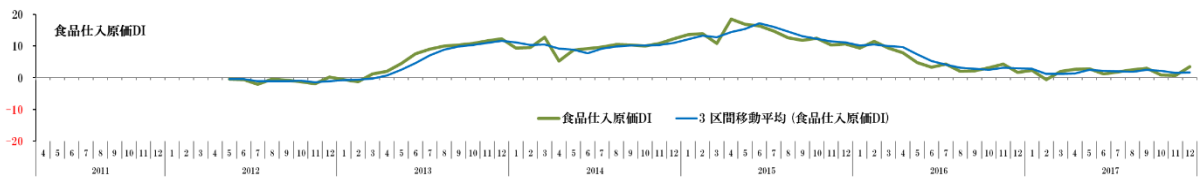
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	3.5	12.6	44.7	36.2	3.0	5.7
生鮮仕入原価 (当月)	1.1	5.9	34.0	51.1	8.0	14.8



7. 食品仕入原価 DI

わずかなプラス域で横ばいでの推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	3.5	11.4	65.3	18.3	1.5	0.7
食品仕入原価 (当月)	2.1	8.4	64.2	23.7	1.6	3.6

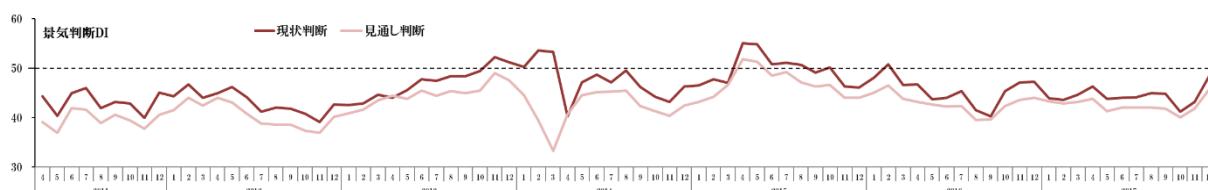


Ⅱ．景況感調査（2011年4月～／周辺地域景気判断のみ 2010年4月～）

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断共に大幅に改善

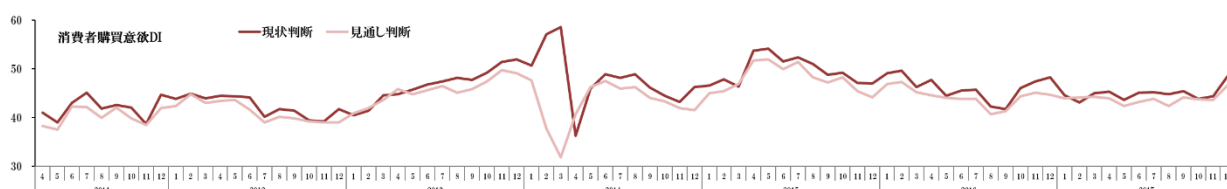
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	3.4	26.0	64.7	5.9	0.0	43.3
【現状】景気判断（当月）	2.1	19.8	61.5	15.1	1.6	48.6
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	3.0	31.5	60.6	4.9	0.0	41.9
【見通し】景気判断（当月）	2.1	24.1	62.3	11.5	0.0	45.8



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に大幅に改善

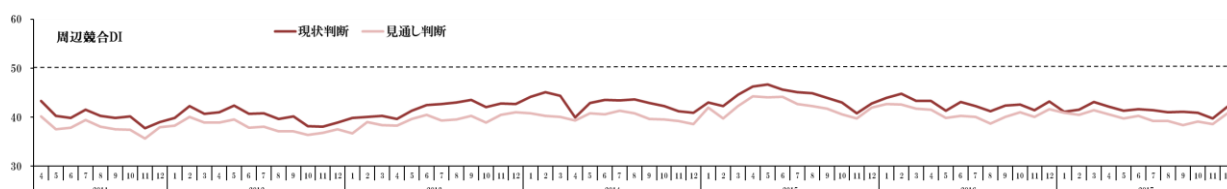
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	1.0	27.0	65.7	6.4	0.0	44.4
【現状】購買意欲（当月）	0.5	18.8	67.7	12.5	0.5	48.4
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	0.5	28.6	67.0	3.9	0.0	43.6
【見通し】購買意欲（当月）	0.5	19.8	72.4	7.3	0.0	46.6



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に小幅に改善

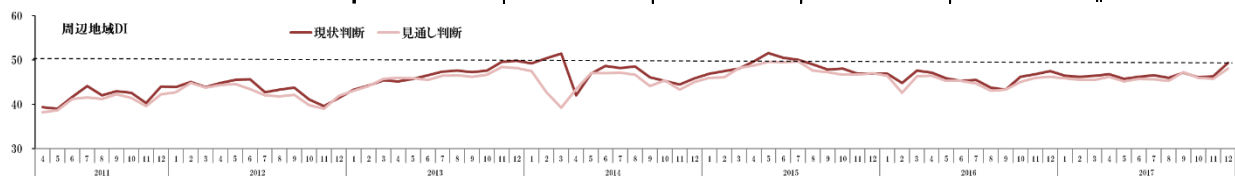
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	4.9	32.8	60.8	1.5	0.0	39.7
【現状】競合状況（当月）	3.1	25.9	70.5	0.5	0.0	42.1
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	5.9	35.0	58.1	1.0	0.0	38.5
【見通し】競合状況（当月）	5.2	26.4	68.4	0.0	0.0	40.8



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

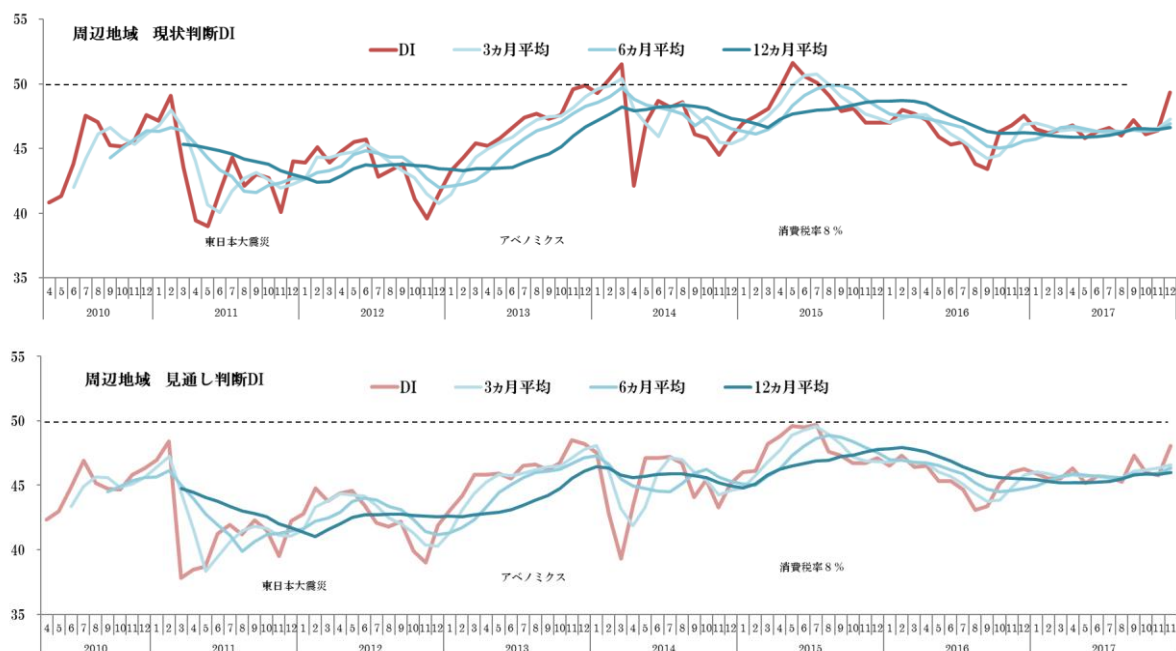
現状判断、見通し判断共に大幅な改善

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.5	15.4	82.1	2.0	0.0	46.4
【現状】地域景気 (当月)	0.5	7.8	85.5	6.2	0.0	49.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.5	17.9	79.6	2.0	0.0	45.8
【見通し】地域景気 (当月)	1.0	9.3	86.0	3.6	0.0	48.1



長期傾向 (2010 年 4 月～)

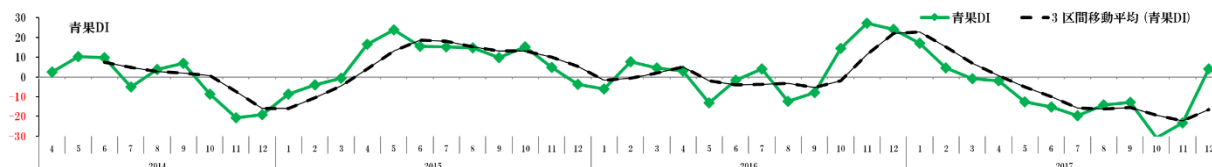
2012 年 11 月以降改善傾向を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断 DI」は、2014 年 4 月の消費税率引き上げの影響を受け大きく下落した。5 月に一旦持ち直したものの、6 月～8 月まで横ばい推移、9 月に再び悪化した。その後、年末から 6 ヶ月連続で改善し、2015 年 5 月には調査開始以来の最高水準まで改善をみせた。これをピークに 6 月以降悪化傾向が続き 11 月は下落の速度が早まった。12 月～2 月は横ばいで推移したものの、2016 年 3 月以降悪化をみせ、8 月には大きく下落した。直近 9 月に下げ止まりをみせ、12 月まで小幅な改善が続いた。2017 年に入り 12 ヶ月移動線付近で下げ止り、横ばい推移が続いていたが、12 月に大幅な改善をみせずすべての移動線がプラス転換した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：4.1（やや好調）

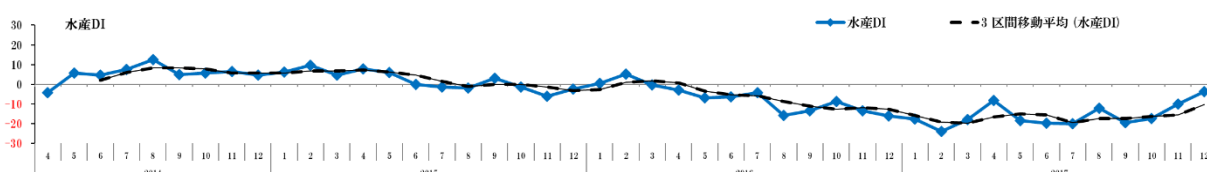
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	26.3	50.5	14.9	6.7	1.5	-23.3
青果（当月）	6.6	22.5	27.5	34.6	8.8	4.1



葉物を中心に野菜相場が高騰したことで、一品単価が大きく上昇し好調となった。前年は暖冬により不振となった鍋物需要が気温の低下により底堅く推移したことや、容量調整により値ごろ感を訴求する取り組みなどが数量を維持することに貢献した。菌茸類が好調となったが、根菜類は前年並みとなった。高騰の影響でカット野菜は好調となっている。国産果物ではみかんは好不調がわかれ、いちごは高値で不調、輸入果物のバナナやキウイなどは好調とのコメントがみられた。

2. 水産DI：-3.7（やや不調）

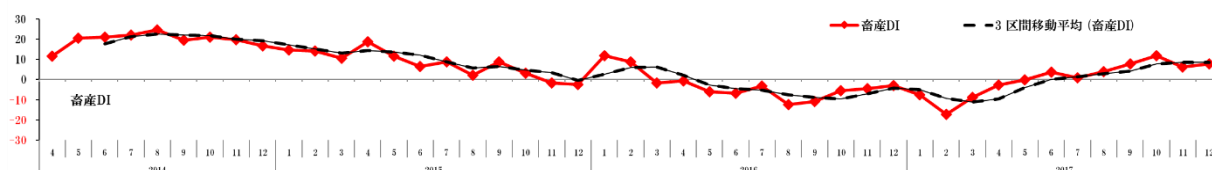
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	12.0	37.0	31.8	17.2	2.1	-9.9
水産（当月）	6.6	33.1	31.5	26.0	2.8	-3.7



気温の低下により鍋物関連の切り身やカニも好調となった。相場の安定しているぶりは引き続き好調、数の子や塩干品、漬け魚も比較的好調とする店舗が多かった。一方、近海魚は不漁による高値と品薄の影響で不調が続いている。刺身類は好不調わかれているが、マグロを中心に相場が高騰しているなかで値ごろ感の打ち出しに苦心しているといったコメントがみられた。寿司商材は年末を中心にやや好調に推移した。

3. 畜産DI：7.8（やや好調）

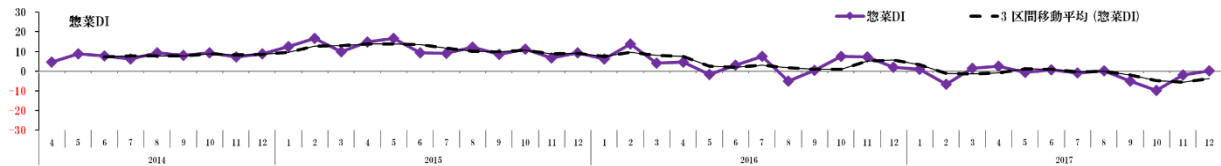
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	4.1	19.6	33.0	34.0	9.3	6.2
畜産（当月）	2.2	17.8	32.8	41.1	6.1	7.8



気温低下により鍋物、しゃぶしゃぶ用の動きがよく、豚肉や鶏肉が好調となった。国産豚肉は高騰しておりバラやスライスの動きがよかった。牛肉は年末にかけて和牛など高単価のすき焼き用が好調であった店舗もみられたが、周辺店舗との価格競争や輸入牛の販促シフトなどの影響で、前年並みか不調となった店舗が多かった。肉加工品は、ギフトを含めて不調とするコメントが多かった。

4. 惣菜DI：0.3（やや好調）

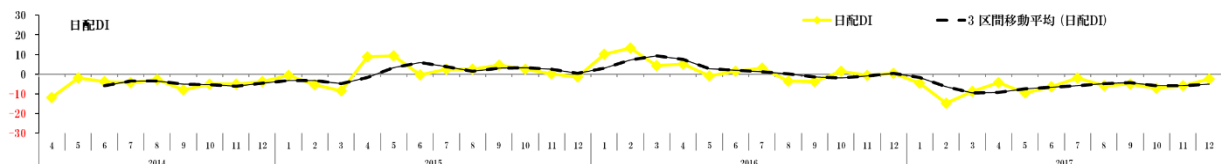
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	7.3	24.5	41.1	22.4	4.7	-1.8
惣菜（当月）	3.3	23.2	45.3	25.4	2.8	0.3



クリスマスは曜日めぐりが悪くオードブル等が不調となったほか、年末にかけても伸び悩んだ店舗が多かった。米飯類は総じて好調に推移したが、寿司や揚げ物については好不調の判断が二分されており、全体としての傾向がみられなかった。新メニューや出来立ての提供などの取り組み強化が成果をあげているとのコメントが多い一方で、人手不足により生産に支障があったとの指摘もみられた。

5. 日配DI：-2.5（やや不調）

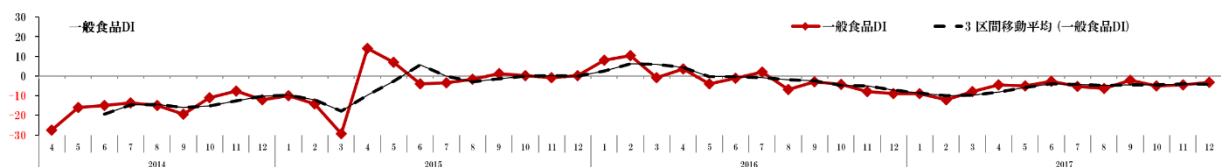
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	6.2	30.1	45.1	17.6	1.0	-5.7
日配（当月）	3.9	28.2	43.6	22.7	1.7	-2.5



前年との気温差により、冬物商材やおでん・鍋用商材などは動きがよかった一方で、乳製品やデザート、飲料などの洋日配は不調となった。機能性ヨーグルトは前年対比で不調となった店舗が多い。前年ヒットした甘酒も反動減がみられた一方で、メディア報道により豆腐や納豆などの動きはよかった。おせち関連は前年並みからやや不調とするコメントが多かった。他業態との価格競争が厳しいとの指摘もみられた。

6. 一般食品：-3.2（やや不調）

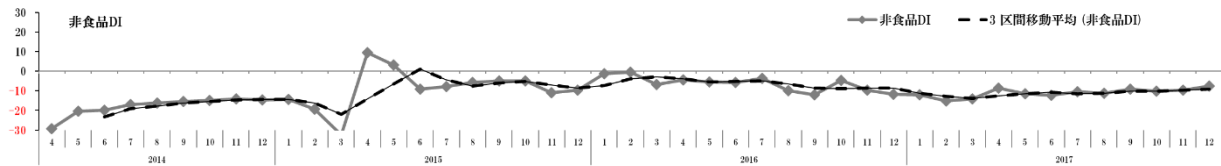
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	5.7	30.1	42.5	19.7	2.1	-4.4
一般食品（当月）	5.0	25.4	47.5	21.5	0.6	-3.2



前年との気温差により、スープ類やカレー・シチュー、鍋つゆ、麺類などのホットメニューの動きがよかった。米類は新米の価格がやや上昇しているなか好調となった店舗が多い。一方で飲料は不調、酒類は好不調がわかれている。メディア報道のあった缶詰類は引き続き好調となった。競争が厳しくなっている影響でギフト関連は不調、年末商戦も伸び悩んだ店舗が多かった。

7. 非食品 DI：-7.6（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	12.9	28.0	45.7	11.3	2.2	-9.5
非食品（当月）	7.9	33.9	42.4	12.4	3.4	-7.6



気温の低下によりカイロや入浴剤、冬用化粧品など一部の動きがよくなっているが、主力の消耗品の動きは鈍く、特に紙類での落ち込みが大きい。ホームセンターやドラッグストアなどとの価格競争の影響を大きく受けているとのコメントが多い。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20 ～

2018 年 1 月調査（12 月実績）キーワード TOP3

1. 青果相場高
2. 気温の低下（前年より気温が低い）
3. 競合激化（来客数の減少）

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

12 月実績速報版 193 社
 11 月実績確報版 204 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp